

令和 8 年 3 月 25 日

土佐リハビリテーションカレッジ
理事長 大崎 博澄 様

学校関係者評価委員会
委員長 北村 剛

第 14 回 学校関係者評価委員会報告書

令和 7 年度開催 第 14 回 学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 小笠原 正 (企業等評価委員)
- ② 一圓 智加 (企業等評価委員)
- ③ 細田 里南 (卒業生評価委員)
- ④ 北村 剛 (卒業生評価委員 委員長)
- ⑤ 後藤 欽司 (専門家等評価委員)
- ⑥ 濱川 美香 (高等学校等評価委員)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

- 第 1 回委員会 平成 27 年 8 月 29 日 (会場：土佐リハビリテーションカレッジ会議室)
- 第 2 回委員会 平成 28 年 10 月 1 日 (会場：土佐リハビリテーションカレッジ会議室)
- 第 3 回委員会 平成 29 年 7 月 29 日 (会場：土佐リハビリテーションカレッジ会議室)
- 第 4 回委員会 平成 31 年 3 月 26 日 (会場：土佐リハビリテーションカレッジ会議室)
- 第 5 回委員会 令和 3 年 7 月 9 日 (会場：土佐リハビリテーションカレッジ会議室)
- 第 6 回委員会 令和 4 年 3 月 29 日 (会場：土佐リハビリテーションカレッジ会議室)
- 第 7 回委員会 令和 4 年 12 月 16 日 (会場：土佐リハビリテーションカレッジ会議室)
- 第 8 回委員会 令和 5 年 3 月 30 日 (会場：土佐リハビリテーションカレッジ会議室)
- 第 9 回委員会 令和 6 年 1 月 17 日 (会場：土佐リハビリテーションカレッジ会議室)
- 第 10 回委員会 令和 6 年 3 月 27 日 (会場：土佐リハビリテーションカレッジ会議室)
- 第 11 回委員会 令和 7 年 1 月 22 日 (会場：土佐リハビリテーションカレッジ会議室)
- 第 12 回委員会 令和 7 年 3 月 26 日 (会場：土佐リハビリテーションカレッジ会議室)
- 第 13 回委員会 令和 8 年 1 月 25 日 (会場：土佐リハビリテーションカレッジ会議室)

3 学校関係者評価委員会報告書

別添のとおり

以上

別添

令和 8 年 3 月 25 日
土佐リハビリテーションカレッジ
学校関係者評価委員会

第 14 回 学校関係者評価委員会報告書

令和 8 年 3 月 25 日に開催された委員会の討議に基づく検討課題と改善に向けた取り組みについて
評価結果をまとめた。

1. 国家試験合格率について

【令和7年度の取り組み】

○国家試験合格に向けて

- ・第61回国家試験が令和8年2月23日に実施された。理学療法士国家試験では、全国において新卒受験者11,366名に対し合格者10,782名（合格率94.9%）であった。一方、本校においては新卒受験者20名に対し合格者19名（合格率95.0%）であった。

作業療法士国家試験では、全国において新卒受験者4,801名に対し合格者4,636名（合格率96.6%）であった。一方、本校においては新卒受験者31名に対し合格者27名（合格率87.1%）であった。両学科共に「新卒者合格率100%」の目標を達成できなかった。分析した結果、作業療法学科では「努力停滞型（真面目だが伸び悩む）」と「学習放棄型（登校不安定）」の二極化が見られた。

【学校関係者評価委員からの意見】

- ① 毎年100%を掲げて尽力しているが、あと数名というところで達成できないのは非常に悔しい。
- ② 学習放棄型の学生が最後まで受験できたことは評価できるが、早期（低学年）からの生活習慣の確立や、登校するメリットを実感させる環境づくりが重要ではないか。

【学校からの回答】

- ① 低学年時からの基礎学力の定着と、学級運営の再構築（登校のメリットを実感できる雰囲気作り）を次年度の課題とする。
- ② 「国家試験に落ちることによる経済的損失」などの具体的な将来像を伝え、危機感とモチベーションを養う指導を強化したい。

2. 卒業率について

【令和7年度の取り組み】

○卒業率について

・令和4年度入学生であった第30期生の入学者数は、理学療法学科31名、作業療法学科34名であった。これら入学生の内、本校修業年限の4年間で卒業できた者は理学療法学科で21名（卒業率67.7%）、作業療法学科で29名（卒業率85.3%）であった。また、第30期入学生の中で国家試験に合格した者は理学療法学科19名（合格率61.3%）、作業療法学科27名（合格率79.4%）であった。なお、参考資料として厚生労働省第1回PTOT学校養成施設カリキュラム等改善検討会の資料（平成29年6月付）では4年制リハビリテーション専門学校（昼間）の卒業率と国家試験合格率は理学療法学科で66.5%と53.0%、作業療法学科で63.9%と60.4%であった。

【学校関係者評価委員からの意見】

- ① 理学療法学科の卒業率が低い要因は何か。

【学校関係からの回答】

- ① 学力不足により、1・2年次での脱落者が多かったことが影響していると考えられる。

3. 退学者数および休学者数の現状について

【令和7年度の取り組み】

○退学者数および休学者数の現状について

- ・令和7年度当初の在學生総数は218名（理学療法学科/専攻110名、作業療法学科/専攻108名）であった。最終集計は、3月末になるが、現状では退学者数は3名（作業療法学科/専攻：1年2名、3年：1名）、休学者数は1名（作業療法学専攻2年：1名）の状況である。退学者は、成績不良の要因が大きい。休学者は、前期の成績不良のため後期休学した学生である。

【学校関係者評価委員からの意見】

特になし

【学校関係からの回答】

特になし

4. 新教育課程運用の状況について

【令和7年度の取り組み】

○新教育課程運用の状況について

- ・令和2年度入学生より新課程を適用しており、訪問・通所リハビリ施設での「見学実習」や、他校（看護学科）との多職種連携教育（IPE）を導入している。IPEでは3年生後期に合同グループワークを行い、チーム医療の視点を養っている。また、栄養学、薬理学、医用画像評価などの新設科目を国家試験の出題傾向に合わせて指導している。

【学校関係者評価委員からの意見】：

特になし

【学校からの回答】

特になし

5. その他、就職・求人状況について

【令和7年度の取り組み】

○その他、就職・求人状況について

今年度卒業の30期生に関しては、国家試験に合格した学生は、全員が就職内定ないし、国家試験後の就活を勧めている。求人情報も十分あるため、両学科の就職率は第1期卒業生以来、30年連続して100%を達成できる予定である。

令和7年度採用求人数は、2月時点で理学療法学科2,426人（内、高知県内60人）、作業療法学科1,873人（内、高知県内56人）であった。昨年度から求人数は若干減っている。県外県内共に就職試験が早まりつつあり、実習中の就職活動が多くなってきており、実習前の就職に対する準備や、実習中の就活支援に力を入れていく方向に変わってきている。

また就職支援については、昨年度より1年次から「社会人基礎力とは何か」という就活セミナーを開始し、4年次までに約12回に及ぶ就活セミナーを企画実施している。キャリアサポートセンターのキャリアコンサルタントに加え、ハローワーク高知の就職ナビゲーターともタイアップして自分自身の資格取得やボランティア体験といったキャリアを意識して積み重ねていける支援を4年次の就職までトータルでサポートを行っている。

求人施設も訪問リハ、デイケア・デイサービス事業所、放課後児童デイ、幼稚園などより地域に密着した施設からの求人が増えてきており、就職先の方向性が多様化している。また、今年は、医療福祉分野に加えて作業療法学科学生で独立行政法人障害者職業カウンセラーにチャレンジし就職が内定した学生や現在、法務省専門職職員試験にチャレンジする予定の学生も2名おり、理学療法士、作業療法士を活かせる分野に就職が広がっている。今後はこの分野にも就職が拡大していくものと思われ、さらなる資格支援や公務員試験も含めた情報提供をしている。

病院施設からの奨学金に対しての情報提供、受験準備、面接指導なども行っている。

【学校関係者評価委員からの意見】

- ① 県外就職が約半数（50%）に達しているが、その背景は何か。
- ② 1年生からのキャリア教育や、リハビリ専門職の枠を超えた視野の拡大は、大学としての方向性として非常に好ましい。

【学校からの回答】

- ① 県外就職は学生の「向上心」や「県外への憧れ」が要因として大きいですが、Uターンで戻る者も多い。
- ② 医療分野を主軸としつつ、多様な社会貢献ができる武器を持たせる教育を推進したい。